

カナダ、オーストラリア 2カ国の豆類の生産見通し状況

●カナダ:2025年9月26日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省（AAFC）の2024/25作物年度及び2025/26作物年度の生産見通し報告書を、2025年9月19日までに入手できた情報に基づいて更新するものである。本報告書は、カナダ統計局から改訂・公表された2024/25作物年度の供給及び需要に関するデータを取り入れて作成している。カナダでは大部分の作物について作物年度が8月1日に始まり7月31日に終わるが、トウモロコシ及び大豆については作物年度が9月1日に始まり8月31日に終わる。地政学上の懸念により、世界の穀物市場の不稳定性は高まっている。

乾燥エンドウ

2024/25作物年度のカナダの乾燥エンドウ輸出量は、中国及び米国への輸出量の減少により、2023/24作物年度の水準に比べてわずかに減少して217万tとなった。このような減少分の一部は、バングラデシュ及びパキスタンからの需要が増加したことで埋め合わせられた。国内利用量は、前年度に比べて増加した。乾燥エンドウの平均価格は、2023/24作物年度に比べて12%低下して405ドル/tとなっており、これは世界的な供給量の増加及びカナダの期末在庫量の大幅な増加によるものである。

2025/26作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、主として単収の向上及び栽培面積の増加により、2024/25作物年度に比べて19%増加して356万tとなる見込みである。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の47%、アルバータ州が45%をそれぞれ占めており、残りはマニトバ州、ブリティッシュコロンビア州及びカナダ東部で生産されている。その結果として、総供給量の増加は70万tとなり、これは期初在庫量及び生産量の増加によるものである。輸出量は増加して220万tとなる見込みであり、インド、中国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位を占めている。期末在庫量は、大幅に増加して過去最高記録

の水準に達するものと予測されている。カナダ、ロシア及び米国で乾燥エンドウが大量に生産されていることから、平均価格は2024/25作物年度に比べて低下して300ドル/tとなると見込まれている。

レンズマメ

2024/25作物年度のレンズマメ輸出量は、前作物年度に比べて9%増加して182万tとなる見込みである。この輸出量のうち110万tが赤色レンズマメであり、緑色レンズマメが72万tを占めている。主要な輸出市場は、トルコ、インド及びアラブ首長国連邦であった。国内総利用量は前作物年度から増加して35万tであった。期末在庫量は、大幅に増加して55万tとなった。カナダ産レンズマメの平均価格は、21%低下して790ドル/tとなった。第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、第1等級の赤色レンズマメの価格を464ドル/t上回った状態を保っている。

2025/26作物年度のレンズマメ生産量は、50万t増加して297万tとなったが、これは単収の向上と作付面積の増加によるものである。州別にみると、サスカチュワーン州が全体の84%、アルバータ州が16%を占める見込みである。期初在庫量が増加したことにより、総供給量は前作物年度に比べて32%増加して過去最高記録の360万tとなる見込みである。輸出量は、増加して210万tとなると予測されている。期末在庫量は、大幅に増加して過去最高記録の115万tとなるものと予測されている。期末在庫量が増加しており、世界的な供給増加が見込まれていることから、全等級のレンズマメの平均価格は、2024/25作物年度に比べて大きく低下して、510ドル/tとなる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2024/25作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2023/24作物年度に比べてわずかに減少して40万2,000tとなる見込みである。EU諸国及び米国がカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場の上位2カ国であり、これより少ない量が日本及びメキシコに輸出されている。北米全体の生産量の増加が、カナダ産乾燥インゲンマメの価格が12%低下したことの要因となっている。

2025/26作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は、作付面積が前作物年度と変わらないにも関わらず、栽培を断念した面積の増加と単収の低下によって、17%減少して35万2,000tとなると予測されている。州別にみると、

マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の44%を占めており、オンタリオ州が36%、アルバータ州が20%を占めている。期初在庫量が増加したことから、総供給量の減少は10%に留まる見込みである。輸出量は、前作物年度に比べて減少する見込みである。しかし、期末在庫量は減少する見込みである。北米での供給量が増加すると予測されていることから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は低下して、945ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2024/25作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、前作物年度に比べて増加して過去最高記録の20万9,000tとなった。パキスタン及びEU諸国からの需要が高まったことが輸出量増加の要因となっている。輸出量の増加を供給量の増加が上回ったことから、期末在庫量は前作物年度に比べて大幅に增加了。ヒヨコマメの平均価格は大きく低下して、735ドル/tとなった。

2025/26作物年度のヒヨコマメ生産量は、作付面積の増加と単収の向上により、前作物年度比べて増加して33万1,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワーン州がヒヨコマメ生産量全体の88%を占め、アルバータ州が12%を占めている。期初在庫量が増加したことから、総供給量は生産量の増加を上回り、21%の増加で43万tとなる見込みである。輸出量は2024/25作物年度に比べて減少する見込みであり、供給量が増加したことから、期末在庫量は大幅に増加するものと予測されている。世界的にヒヨコマメの供給

表1 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2023- 2024 2024	2024- 2025 [f] 2026 [f]	2025- 2026 [f]	2023- 2024 2024	2024- 2025 [f] 2026 [f]	2025- 2026 [f]	2023- 2024 2024	2024- 2025 [f] 2026 [f]	2025- 2026 [f]	2023- 2024 2024	2024- 2025 [f] 2026 [f]	2025- 2026 [f]
作付面積(1,000ha)	1,233	1,300	1,420	1,485	1,704	1,772	129	163	162	128	194	219
収穫面積(1,000ha)	1,200	1,281	1,385	1,460	1,693	1,748	129	160	146	127	194	214
単収(t/ha)	2.17	2.34	2.57	1.23	1.44	1.7	2.63	2.65	2.42	1.25	1.48	1.55
生産量(1,000t)	2,609	2,997	3,563	1,801	2,431	2,972	339	424	352	159	287	331
輸入量(1,000t) [b]	127	38	20	92	124	75	70	71	70	47	43	40
総供給量(1,000t)	3,286	3,335	4,072	2,104	2,721	3,596	489	515	462	299	359	433
輸出量(1,000t) [b]	2,402	2,174	2,200	1,675	1,821	2,100	408	402	380	184	209	200
国内総利用量(1,000t) [c]	584	672	672	264	350	351	61	73	62	86	88	88
期末在庫量(1,000t)	299	489	1,200	165	549	1,145	20	40	20	30	62	145
在庫量/利用量	10%	17%	42%	9%	25%	47%	4%	8%	5%	11%	21%	50%
平均価格(ドル/t) [d]	460	405	300	1,000	790	510	1,215	1,075	945	1,005	735	600

(a) 作物年度は8月から7月まで。

(b) 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

(c) 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。

(d) 生産者価格(FOB、本船渡し)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

(f) 2024/25作物年度については、STC(カナダ統計局)による推定。2025/26作物年度については、AAFC(カナダ食料農業省)による予測。

ただし、作付面積、単収及び生産量はSTCの推定。

典拠：カナダ統計局(STC) 及びカナダ食料農業省(AAFC)。

量が増加するとの思惑があることから、平均価格は前作物年度に比べて低下して600ドル/tとなる見込みである。

●オーストラリア:2025年9月2日公表 ABARES Australian crop report

概観

2025/26作物年度のオーストラリアの冬作の生産量は、2%増加して6,200万tとなる見込みである。この値は2024/25作物年度までの10年間の平均値を26%上回っており、予測通りになれば記録史上3番目の生産量となるであろう。この予測は西オーストラリア州、南オーストラリア州及びヴィクトリア州の生産量の増加、並びにニューサウスウェールズ州北部及びクイーンズランド州の生産量が平年並みを上回ったことを反映している。南オーストラリア州及びヴィクトリア州で冬作の生育期間の始めに非常に乾燥した、また地域によってばらつきのある生育条件に見舞われたにも関わらず、冬作の期間全体としては生育条件が持ち直したこと、オーストラリアの主要な冬作生産地域の生産量が増加した。

- ・南オーストラリア州、ヴィクトリア州西部及びニューサウスウェールズ州南部では、冬作の生育期間の始めに不利な生育条件に見舞われ、作物の多くについて土壌水分含有割合が抑えられた乾燥した条件で播種が行われた。南オーストラリア州及びヴィクトリア州では6月に平年並みを上回る降水量が得られ、8月にさらに降雨に恵まれて、作物の発芽及び生育に十分な水分に恵まれたことから、3、4週間の遅れはあるものの良好な単収が得られる可能性がある。
- ・ニューサウスウェールズ州南部では降水量に恵まれず、作物の成長を維持する程度に留まっている。現在の単収の予測を実現するためには、さらなる降水量が得られるかどうかが重要である。
- ・これらの地域とは対照的に、西オーストラリア州、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州北部では、時宜を得た降雨に恵まれて生育条件は良好であり、十分な土壌水分含有割合を維持してきた。生育条件に恵まれて、作物は良好な状態で春季に向かいつつある。

オーストラリア気象庁が2025年8月21日に公表した最新の3ヵ月間気象予測(9月から11月)によれば、クイーンズランド州及びニューサウスウェールズ州の生産地域では春季の降水量が平年並みを上回る可能性が65%から80%あ

ると見込まれており、ヴィクトリア州及び南オーストラリア州では55%から70%の可能性が見込まれている。一方、西オーストラリア州では、平年並みを上回る降水量が得られる可能性が35%から50%と低くなっている。このように全般的には春季の降水量の予測が良好とされていることから、予測通りになれば作物の生育が進み、単収が向上する可能性がある。

オーストラリアの2025/26作物年度の冬作全体の作物生産量の見通しは、*the June 2025 Australian crop report*（『2025年6月オーストラリア生産報告書』）で公表された生産見通し時点に比べて12%増加する方向で修正された。これは、大部分の生産地域で予測を上回る生育条件が実現したことで、すべての主要作物について6月時点での予測が上方修正されたことによるものである。

- 2025/26作物年度のレンズマメ生産量は、34%増加して過去最高記録の170万tとなる見込みである。この値は、2024/25作物年度までの10年間の平均値を95%上回っている。このような生産量の増加は、作付面積の増加を反映したものである。
- 2025/26作物年度のヒヨコマメ生産量は、7%減少して210万tとなる見込みである。これは、作付面積の增加分が単収の低下によって相殺されると予測されていることによるものである。

表2 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名	2022-23s	2023-24s	2024-25s	2025-26f
ヒヨコマメ	作付面積(1,000ha)	397.5	409.0	1,038.5
	生産量(1,000t)	541.0	491.2	2,102.5
ソラマメ	作付面積(1,000ha)	330.0	343.1	401.0
	生産量(1,000t)	730.0	640.4	854.0
エンドウマメ	作付面積(1,000ha)	198.0	192.0	193.0
	生産量(1,000t)	313.8	228.0	228.0
レンズマメ	作付面積(1,000ha)	692.3	865.0	1,036.8
	生産量(1,000t)	1,688.8	1,643.0	1,272.1
ルーピン	作付面積(1,000ha)	536.4	441.0	514.5
	生産量(1,000t)	1,100.8	610.8	840.4

f : ABARESによる予測。

s : ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12カ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。

典拠 : ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。

表3 州別生産量

冬作作物	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)										
ヒヨコマメ												
2023-24s	150.0	165.0	25.0	30.0	220.0	280.0	10.0	12.0	4.0	4.2	0.0	0.0
2024-25s	580.0	1 280.0	24.0	22.0	420.0	950.0	10.0	9.0	4.5	6.0	0.0	0.0
2025-26f	590.0	1 230.0	22.0	22.0	450.0	835.0	11.0	10.5	4.5	5.0	0.0	0.0
2024-25 作物年度まで の5年間 の平均	301.6	541.6	28.0	34.1	269.4	454.7	9.2	11.0	5.2	6.2	0.0	0.0
エンドウマメ												
2023-24s	40.0	40.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.0	32.0	42.0	0.0	0.0
2024-25s	50.0	65.0	40.0	40.0	0.0	0.0	70.0	65.0	33.0	58.0	0.0	0.0
2025-26f	45.0	58.0	40.0	45.0	0.0	0.0	65.0	65.0	34.0	52.0	0.0	0.0
2024-25 作物年度まで の5年間 の平均	40.3	49.1	49.2	79.1	0.0	0.0	76.5	98.9	39.3	58.9	0.0	0.0
レンズマメ												
2023-24s	15.0	14.0	450.0	856.1	0.5	0.4	390.0	760.0	9.5	12.5	0.0	0.0
2024-25s	35.0	43.0	520.0	650.0	1.3	1.5	470.0	554.6	10.5	16.0	0.0	0.0
2025-26f	75.0	90.0	530.0	750.0	1.1	1.2	515.0	844.6	15.0	21.0	0.0	0.0
2024-25 作物年度まで の5年間 の平均	17.8	20.0	371.2	626.6	0.9	1.0	333.9	627.0	10.2	15.5	0.0	0.0
ルーピン												
2023-24s	45.0	60.0	40.0	41.0	0.9	1.4	40.0	48.0	315.0	460.0	0.1	0.4
2024-25s	90.0	125.0	35.0	30.0	1.5	3.0	38.0	35.0	350.0	585.0	0.0	0.0
2025-26f	80.0	118.0	34.0	32.0	1.2	2.2	36.0	38.2	400.0	650.0	0.0	0.0
2024-25 作物年度まで の5年間 の平均	67.0	102.0	38.0	41.0	1.3	2.1	44.0	53.5	368.3	663.9	0.0	0.1

f : ABARESによる予測。

s : ABARESによる推定。

注：面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。ABSの農業データ収集方法の変更により、1986-87年度から1990-91年度までは推定生産額20,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、1991-92年度から1992-93年度までは22,500ドル以上、1993-94年度から2014-15年度までは5,000ドル以上、2015-16年度以降は推定生産額40,000ドル以上のEVAOによる生産量となっている。

典拠：ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。

表4 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

作物名 豆類 d	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23s (1,000t)	2023-24s (1,000t)
生産量						
ルーピン	799	591	866	958	1101	611
エンドウマメ	160	210	399	261	314	228
ヒヨコマメ	205	235	876	1062	541	491
見かけ上の国内利用量 c						
ルーピン	526	376	406	400	268	216
エンドウマメ	87	165	275	66	186	125
ヒヨコマメ e	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	273	215	459	557	833	395
エンドウマメ	75	48	126	196	129	104
ヒヨコマメ	371	349	879	594	725	518

a: 市場年度は、10月から9月までである。

b: 穀物及び小麦粉の穀物相当量を含む。

c: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を差し引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を差し引いて算出した値。さらにコムギについては、種子用の量を差し引いている。

d: 豆類の市場年度は11月から10月である。

e: 見かけ上の国内利用量は、輸出量が生産量と在庫量を合計した値を上回った場合には、1とする。

s: ABARESによる推定。

注: 市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量のデータと一致しない場合がある。ABSの農業データ収集方法の変更により、1986-87年度から1990-91年度までは推定生産額20,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、1991-92年度から1992-93年度までは22,500ドル以上、1993-94年度から2014-15年度までは5,000ドル以上、2015-16年度以降は推定生産額40,000ドル以上のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia。

表5 豆類価格の推移

作物名	2023	2024				2025	
	第4四半期 (豪ドル/t)	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)	第3四半期 (豪ドル/t)	第4四半期 (豪ドル/t)	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)
国内価格: ルーピン(キンナ調べ)	430.0	482.3	564.2	558.1	516.5	510.8	511.9
国内価格: ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	822.5	870.8	943.8	965.7	902.3	938.8	913.8
国内価格: エンドウマメ(メルボルン調べ)	517.0	536.8	578.2	564.6	574.4	646.5	739.2
輸出価格: ヒヨコマメ b	839.2	965.3	1,022.4	1,074.0	1,082.2	898.8	1,036.5
輸出価格: エンドウマメ b	684.8	657.4	596.3	628.7	639.7	673.2	756.9

a: 米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの平均価格(F.O.B.本船渡し)である。

輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間に、大きな時間差が生じる場合がある。
注: 第1四半期は1月~3月。第2四半期は4月~6月。第3四半期は7月~9月。第4四半期は10月~12月。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)。ABS(オーストラリア統計局)。CME グループ。Farm Weekly。国際穀物会議(IGC)。Jumbuk AG。The Land. The Weekly Times。米国農務省(USDA)。

米国についてはUSDAのウェブサイトがしばらくアップデートされていなかったが、11月17日付けて雑豆に関しては次のデータが掲載されている。

表6 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し(2024年度及び2025年度)

作物名	作付面積(ha)		収穫面積(ha)		単収(t/ha)		生産量(t)	
	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度	2024年度	2025年度
ヒヨコマメ	203,150	218,940	199,270	212,060	1.28	1.59	255,460	337,020
乾燥インゲンマメ	620,390	562,110	608,490	552,200	2.33	2.47	1,419,250	1,363,320
乾燥エンドウ	394,980	477,130	380,370	458,920	1.99	2.03	756,550	933,310
レンズマメ	378,790	434,230	365,440	425,330	1.12	1.18	410,460	502,720

生産量: 米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2025年11月14日付けで公表。

メートル法による米国の2024作物年度及び2025作物年度(集計継続中)の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。

現行年度の推定は、2025作物年度全期間のものである。